

2024年8月25日(日) 第二礼拝「異邦人の救いとイスラエルの回復」ローマ11章25-27節

パウロは私たちに神様の奥義を知ってもらいたいと言っています。その奥義とはすなわち、「イスラエル人の一部がかたくなになつたのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる…(本文25～26節)」ということです。

第一番目、神秘的なイスラエルです。四国と同じくらいの大きさのイスラエルは人口約八百万人で、周りをイスラム国に囲まれています。イスラエルは旧約聖書に二千六百回、新約聖書には八十回記載があります。イスラエルの召命はイエス様の初臨と再臨に関わるものです。しかし、イスラエルは二千年間イエス様を受け入れていません。彼らは全世界に散らされ、行く先々で迫害や虐殺を受けてきました。それにもかかわらず、彼らは全世界で大きな影響力を持つ神秘的な民族です。悪魔はこのイスラエルを聖書的な観点ではなく、一般的な国家の一つとして見なすように仕向けます。残念ながら教会の多くも反ユダヤ主義の立場を取り、置換神学が横行しています。イスラエルの回復のために祈る教会が少ないのが現状です。しかし、イスラエルは宣教の完成であり、終わりのしるしとなる重要な国なのです。

第二番目、イスラエルのつまづきと異邦人の救いです。「…彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。」(ローマ11:11) 救いは元来ユダヤ人のものでしたが、彼らが拒否したため、その救いを異邦人が受け取りました。しかし、神様がイスラエルを捨てられたのではありません。神様の恵みによってイスラエルは救われると約束されています。このイスラエルの違反はかえって世界の富となりました。その一つは福音による霊的祝福です。十字架によって私たちの罪が赦され、永遠のいのちが与えられ、聖霊様が私たちのうちに住まわれるようになりました。もう一つは実際的な富の祝福です。アメリカ、イギリスは行き場を失っていたユダヤ人たちを受け入れたため繁栄しました。聖書にある通りイスラエルに良くした国は繁栄するのです。陸軍中將だった樋口季一郎氏はユダヤ人たちの満洲通過を認め、助けました。リトアニア領事だった杉原千畝氏は六千名にビザを与え、虐殺から守りました。このことにより日本も繁栄しました。

第三番目、イスラエルの回復です。「もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。」(ローマ11:15) 異邦人の救いの完成の後、イスラエルは復活し、みな救われます。彼らは聖霊を受けて、イエス様を主と告白するようになるのです。アメリカによるサポート体制が崩れ、エゼキエル38、39章の戦争が起こり、主だけを求める恵みと哀願の霊がユダヤ人に注がれる時、彼らは悔い改め、泣きながら主に立ち返ることになります。罪の汚れをきよめる一つの泉が開かれ、イスラエルは復活するのです。今私たちがなすべきことはユダヤ人のアリヤを助け、アリヤした人々が聖霊に満たされ、イエス様を主として告白できるように祈ることです。彼らが「バルハバ、ベツシエム、アドナイ(主の御名によって来られる方に、祝福があるように)」と叫ぶ時、イエス様の再臨が起こります。これが救いの完成です。アーメン！